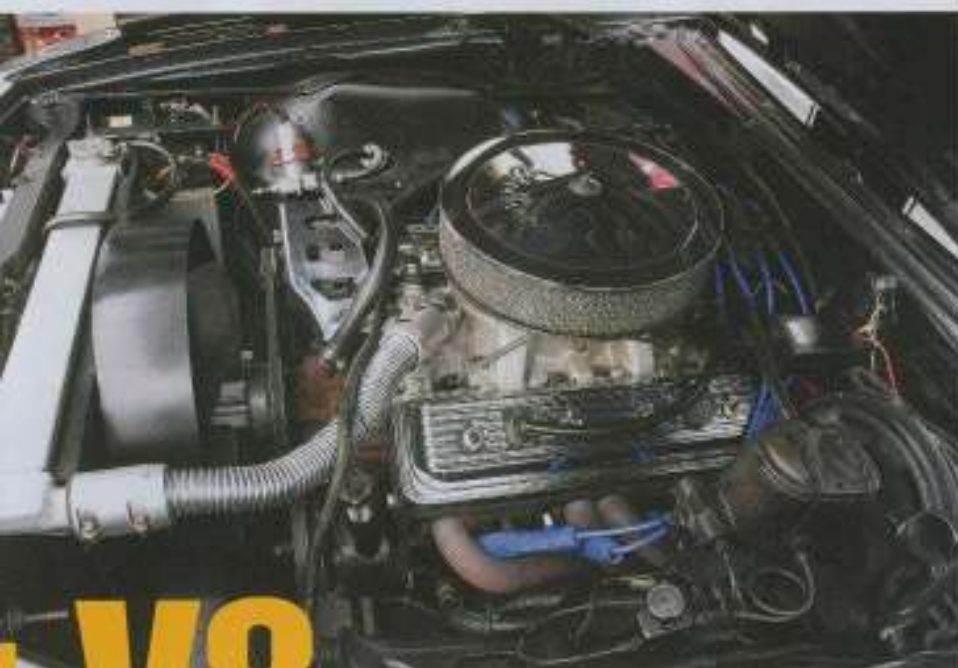


走る、曲がるを身近に愉しむことを狙った、ストリート・カマロ。



V8
DRIVE!!

エンジンはフルメカニカルに仕様変更された350cuinV8(5.0L)。エーテルプロット製のインテーク・マニフォールドにボーンリー650Qmダブルボーンリーキャブレターというハイパフォーマンスが裏にトラディショナルヘダースはヘッドマン。マフラーはプロマスター種を採用。



1981年製の12ボルト・ヘビーデューティ・デフレンシャル。ファイナルは3.07:1でボンドクッション機構付き。ストリートカーとして6.5インチホイイスだそう。

ホイールはアメリカン・レーシングのトルクスラストIIを採用。サイズは15インチ。



さて、ここからは放えてオリジナルにはこだわらず、今回のテーマ通りマニアル・トランスミッションを駆使してV8パフォーマンスを堪能できるクルマを紹介しよう。

GMのFボディだと実感しているからだ(もちろん兄弟分のファイアーバードにも同じ印象を持っているのだが、ここではよりメジャーなカマロに代表して貰うことにした)。

ここでクロスアップしたのはデビュイヤーとなった67年型で、Z28のルックスをなぞって仕上げられた1台だ。本格的なZ28クローンをビルドするのであれば、フードの下にはこの67年型ならではのステールシャーナルの3.02cuinV8をセットするべきところだが、このカマロは3rdカマロ用の350cuinV8(7.98L)を、非コンピュータ制御のキャブレター仕様に変更した上で搭載。より実用的で親しみやすいスポーツティークーペへと変身している。そして、扱いやすくパワーもトルクも充分なこのモーターに組み合わせられたのは、オリジナルの4速マニアル・トランスミッションだ。カマロに限らず、いわゆるマツスル・エイジのGM車でV8モーターに4MTをセットした場合

